

平成16年度実績評価 事務事業進行管理表

事務事業名	街なか再生活動支援事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目
部等名	産業経済部	課等名	産業振興支援室	内線	3510	1	7	1	6	10	99
政策体系上の位置付け	政策	地域の魅力と快適さを高めるまちづくり				関連計画、 条例等					
	施策	中心市街地再生・活性化									
	基本事業										
事業区分	政策的事業	新規、継続区分	継続								
事業期間	H15年度～	H16年度	環境調整会議の必要性	なし							

【D0】(1)この事務事業は、次の目的を達成することを目ざします。

目的の記述	対象 (人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値 (実績・現状)			
	中心市街地で新しい活動を起こすための資金助成を必要としている人、団体	本事業に申請した人、団体数(人、団体)	当初(15)	5	17年度	
			16年度	2		
			当初(15)		17年度	
			16年度			
	意図 (成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値 (実績・目標)			
中心市街地の活性化に向けた活動を実施する。	活動を実施した人、団体数(人、団体)	当初実績(15)	5	最終目標		
		16目標	8	16実績	2	
		17目標				
		当初実績(15)		最終目標		
		16目標		16実績		
		17目標				

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	中心市街地に新たな賑わいを創出するために、中心市街地の活性化に向けて活動しようとする個人、団体の活動費の一部を助成する。	商店街クリスマスディスプレイコンテスト補助(25万円) りんご並木クリスマスイルミネーション設置費補助(25万円)	助成金の総額(円)	500000
	16年度の実績			
	17年度計画	17年度に新設する「いいだのまち観光づくり事業」に統合する。		

<金額の単位:千円>		16予算額	16決算額	17予算額	
事業費	特定国庫支出金				
	特定県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	1,500	500	0	
事業費計(A)		1,500	500	0	
人件費	正規職員所要時間	600	200	0	特定財源内訳
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)	2,112	704	0	
トータルコスト A+B		3,612	1,204	0	

(3)この事業目的の達成は、次の上位(政策や基本事業)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 (この事務事業の上位目的)	上位成果指標(例:施策の成果指標)と単位	上位成果指標の数値			
	中心市街地から新しい情報が発信され、人が集い、にぎわいがうまれる。	中心市街地を訪れた人の数(交通量調査 歩行者数、人)	16目標		16実績	
			17目標			
			16目標		16実績	
17目標						

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
平成14年度に実施した、飯田市民意識調査において、中心市街地活性化を求める声が多かった。	徐々に新しい活動が生まれつつある。	中心市街地の活性化に対する市民要望は強い。

【 See (16年度の事業評価) 】

目的 妥当性 評価	意図の達成が、結果に結びつくか	(評価) 結びつく (その理由) 中心市街地の活性化に向けた活動を実施することにより、中心市街地の魅力が高まり、にぎわいが創出される。	成果(達成度)を向上させる余地はあるか?	(評価) 余地がある (その理由) 効果的なPRを行うこと、また資金の助成だけでなく企画段階から支援することで成果を上げることが可能。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性は?	(評価) 必要性がない (その理由) (評価)	廃止・休止した場合の影響は?	(評価) 影響なし (その理由) 他の事業での対応が可能のため、廃止しても影響はない。
	意図の見直しの必要性は?	(評価) 必要性がない (その理由) 活動を実施することにより、結果に結びつくので、意図の見直しの必要性はない。	類似事業の有無と統合の可能性(市以外の取組も含む)	(評価) 統合可能 (類似事業名、理由) 「りんご並木活用プロジェクト事業」との統合が可能。
	市が関与する必要性は?	(評価) 必要ある (その理由) 市民の自発的な活動が軌道にのるまでは、行政が関与する必要がある。	効率性評価 成果を下げずに、事業費・人件費の削減は?	(評価) 可能 (その理由) 「りんご並木活用プロジェクト事業」との統合することにより削減が可能。
			公平性評価 受益者は誰か?負担の是非、程度は妥当か?	(評価) 妥当である (その理由) 補助率が、他の市民活動に対する助成金と同程度であるため、妥当である。

【 Plan(改革改善案) 】

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	事業の方向性の具体化 (何を、いつまでにどうするか改革改善案) 17年度に新設する「いいだのまち観光づくり事業」に統合し、まちなか観光で交流人口の拡大を図る。	改革改善案実施の課題と克服方法 まちなか観光自体の開発が課題。その克服方法としては、まちの店主やモーニング・ウォークなどに参加している方との連携によるモデルコースの設定と実施(実際に歩いてみる)。
--	--	---